

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成25年度対象)



栄町教育委員会

平成26年11月

はじめに

平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成２０年４月から全ての各教育委員会は毎年その全ての権限に属する事務の管理、執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため実施するものです。また、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に報告するとともに町民への説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	鈴 木 初 子
委員長職務代理者	金 子 一 男
委 員	野 寺 郁 子
委 員	中 島 宣 行
教 育 長	葉 山 幸 雄

目 次

1	点検・評価の対象	P 1
2	点検・評価の方法	P 1
3	点検・評価の結果	P 1
4	点検・評価（施策評価シート）	

平成25年度栄町教育方針

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。 P 2

○学識経験者の意見 P 1 1

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 1 4

基本方針（2）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。 P 1 8

○学識経験者の意見 P 2 2

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 2 4

基本方針（3）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。 P 2 5

○学識経験者の意見 P 2 9

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて P 3 0

5	本町教育行政が取り組む方向について	P 3 1
---	-------------------	-------

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成25年度の重点的な取り組みとして実施した、「教育行政の充実」「学校施設の整備」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学習環境の充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「歴史資料の公開・活用」「文化財保護の拡充」の12の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、主要事業の取り組み状況（達成度）について

- 目標を達成★★★
- 目標をほぼ達成★★
- 目標に達成していない★
- 現時点で判定できない—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

（敬称略）

中村 光夫（元自治会長）
長澤 房枝（元学校長）

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

12施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成★★★・・・・・・・・・・5施策
目標をほぼ達成★★・・・・・・・・・・5施策
目標に達成していない★・・・・・・・・2施策
現時点で判定できない—・・・・・・・・0施策

4 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（１）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎・基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施 策 名】

- ・ 教育行政の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- ・ 学校施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- ・ 特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・ P 5
- ・ きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・ P 6～P 7
- ・ 学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8～P 9
- ・ 学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・ P 14



施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		教育行政の充実					
現状と課題		栄町では、「教育」をすすめる上で、将来社会自立する子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを重視し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等のバランスのとれた教育を推進しています。 平成27年4月に教育委員会制度の抜本的な改正が行われ、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化が求められることになるが、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図っていく。					
施策の情報整理	目指す成果	教育に関する国等の情報が的確に収集され、迅速に教育委員会に諮り、委員会の意思決定を行うとともに、関係課及び各教育機関の指導等を行い、円滑な教育行政が行われている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		教育委員会所管の施策目標の達成度	—	83%	91%	100%	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の達成度(施策の目標を達成した割合)
	成果目標の達成度(★★★)	★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		1,922 千円	
	達成度の理由	教育委員会所管の施策について点検評価を実施した際の、12施策のうち目標を達成した5施策の割合。 (12施策の達成度の内訳は、目標達成が5施策、ほぼ達成が5施策、達成していないが2施策であった)					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	平成27年4月の学校統合を円滑に進める。 学校統合に伴う通学路の整備					
住民との協働や他課の事業との連携	学校統合に伴い、児童・生徒の通学対策(通学路整備、スクールバス運行)について、学校及びPTA等と連携を図る。 地方教育費調査について、財政及び人事関係課と連携を図る。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
① 教育総務運営事業		定例会12回、臨時会3回の教育委員会会議の開催により、重要事項や基本方針の決定を行い円滑な教育行政が行えた。また、教育委員会の施策に対して点検評価を行い目標達成度の検証を行った。 ・教育委員会規則・訓令の制定、改廃 13件 ・予算等議決議案を町長に申し出ること 8件 ・任命・委嘱 12件 ・その他 22件 委員研修(千教連・印教連開催等) 5回	【取組への課題】 子どもたちに、「知」、「徳」、「体」のバランスの取れた「生きる力」をしっかりと身につけさせるために、学校や教師は学力や成長を保証し、保護者は家庭教育の責任を果たし、地域は子どもたちの学習の基盤を整えることが大切である。このため、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいけるような仕組みを作れるよう協議・検討していく。また、平成27年4月に教育委員会制度の抜本的な改正が行われ、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化が求められることになるが、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築を図る。	H24 決算	1,880	
				H25 予算	1,922	
				H25 決算	1,886	
				H26 予算	1,994	
合 計				H24 決算	1,880	
				H25 予算	1,922	
				H25 決算	1,886	
				H26 予算	1,994	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学校施設の整備					
現状と課題		学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されているべき場所である。 北辺田小学校の校舎及び体育館の耐震補強工事が終了し、全ての学校施設の耐震補強工事が完了した。 平成27年4月の統廃合に向け、安食台小学校校舎の大規模改造工事設計を実施し、平成26年度に工事を実施する。また、昨今の夏期の熱中症対策のため、栄中学校空調機設置工事設計を実施し、平成26年度に工事を実施する。					
施策の 情報 整理	目指す成果	子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用される 学校施設の安全が常に確保されている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		学校施設の耐震化率	90.5% (H23)	90.5%	100%	100%	耐震化の必要棟数に対する整備率
	成果目標の達成度 (★★★★)	★★★★	目標を達成(100%)★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上)★★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—		施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		
							98,070 千円
	達成度の理由	北辺田小学校校舎及び屋内運動場耐震補強工事が完了したことで、学校施設21棟全てが耐震化済となった。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	気象変動に伴う夏場の暑さ対策のため小学校への空調機設置 児童生徒の生活習慣の多様化により学校トイレを和式トイレから洋式トイレに改修する。 学習環境の向上を図るため、教室等照明器具のLED照明への切り替え。 安食小学校校舎長寿命化(建替え)の検討 学校統廃合に伴う施設の改修(安食台小学校校舎大規模改造工事及び栄中学校空調機設置工事) 学校統合に伴う跡地の利活用 グラウンドの改修(栄中・安食台小) 非構造部材の耐震化					
住民との協働や他課の事業との連携							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
① 学校教育施設整備事業		児童生徒及び教職員がより良い学校施設で学習することができ、安心して学校生活が送れるよう各種工事・修繕を行った。 ・北辺田小学校校舎・屋内運動場耐震補強工事 ・安食台小学校大規模改造工事設計業務委託 ・栄中学校空調機設置工事設計業務委託 ・布鎌小電気設備・消防設備等修繕(落雷) ・安食小測量設計業務委託(台風による災害復旧)	【取組への課題】 安食台小学校大規模改造工事を平成27年3月27日までに、栄中学校空調機設置工事を平成27年1月30日までに完成させる。	H24 決算	30,503	
				H25 予算	370,304	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 児童生徒が平成27年4月の統合をつつがなく迎えられるように工事を管理する。また、適切に学校教育施設を管理し、より良い学習環境を提供できるようにする。	H25 決算	123,897	
				H26 予算	277,296	
② 学校管理運営事業	より良い学校生活が送れるよう予算の適正な執行・管理を行った。		【取組への課題】 各学校の予算については、限られた財源を有効に活用できるようにする	H24 決算	36,738	
				H25 予算	39,870	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 より良い学校生活が送れるよう学校の予算を適正に執行・管理する。また、引き続き老朽化した機器の修理を実施する。	H25 決算	38,419	
				H26 予算	38,820	
合 計				H24 決算	67,241	
				H25 予算	410,174	
				H25 決算	162,316	
				H26 予算	316,116	

施策評価シート							
1. 施策の情報整理							
施 策 名		特色ある学校づくりの支援					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。そのため、小・中学校の望ましい学校規模の目安の設定、望ましい学校規模を確保するための適正な配置が求められている。					
施策 の 情 報 整 理	目指す成果	望ましい学校教育のあり方、学校の適正規模、適正配置に関する基本的な考え方が明確で、各小中学校が、保護者や地域住民の参加した「特色ある学校づくり」を推進できている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		学校評価における保護者アンケート	85.5% (H23)	90%	93%	95%	学校評価における保護者アンケートにおいて「学校・家庭・地域」が連携して子どもを育てる環境が整っていると感じる割合
	成果目標の達成度(★★★)	★★★	目標を達成(100%) 目標をほぼ達成(80%以上) 目標を達成していない 現時点では判定できない	★★★ ★★ ★ —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		14,075 千円 12,859 千円
	達成度の理由	当初の成果目標は、保護者アンケートで開かれた学校づくりについて、「よくあてはまる。」と答えた割合で設定したが、施策を評価するにあたっては全体の意見を反映したものとして「だいたいあてはまる。」を加えた肯定的意見の割合に変更した。その関係で、成果目標の数値も、25年度70%、26年度80%から、上記のとおり変更した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	24年5月「栄町立小・中学校の学校規模適正化基本方針」が策定した。 24年12月「栄町小中学校統合に関するアンケート調査」を行い、回答者の9割が適正化方針を受け入れるとの結果を得た。各学校において学校支援ボランティアへのニーズが45事業(H23)から53事業(H24)に増えており、地域人材の活用場が広がっている。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	【小中学校再編事業】 ・小中学校統合に伴う学校名、校歌、制服(中学校)の決定 ・児童生徒の心のケア ・PTA組織の再編、北辺田小学区、酒直小学区、栄東中学区の各地域におけるふれあい推進員を含めた地域の活動力の維持					
	住民との協働や他課の事業との連携	・竜角寺台小、安食小、北辺田小において、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育む体制づくりの実現に向けて、学校と地域の連携を図り、学校教育を支援する仕組みづくりを進めることができた。 ・通学路の危険個所の確認を、建設課と共同して行った。					
2. 事務事業の取り組み							
		(単位:千円)					
事務事業名		平成25年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
①	小・中学校再編事業	・4月統合小・中学校対象の学校統合に係る進捗状況の説明会開催 ・8月～月地区懇談会、各小中学校で学区統合の進捗状況進捗状況説明 ・1月～3月町P進捗理事会、民生委員会議、通学区域審議会にて学校統合進捗状況説明 ・6月～3月 1回/月 統合準備委員会開催 ・通学路プロジェクト会議(2回) ・通学路安全推進事業の実施(3回) ・通学路危険個所調査の実施(1回)		【取組への課題】 27年4月の学校規模適正化が円滑に実施できるよう、計画的に事業を推進していく必要がある。		H24 決算	0
						H25 予算	493
				【課題を踏まえ26年度の対応】 統合準備委員会にて、校名、校歌、制服などについて決定していく。27年4月に向け、備品の異動・処分、閉校行事の実行のための予算確保と執行。 円滑な統合を図れるような交流事業を実施する。		H25 決算	228
						H26 予算	9,110
②	特色ある学校づくり推進事業	・学校評議員設置業務 学校評議員を全校に配置した。 ・地域住民による学校支援推進業務 地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援(ゲストティーチャーなど)を推進した。 ・教育振興支援事業 学校教育振興会へ補助金を交付し、活動を支援した。 ・学校安全指導業務 新1年生を迎えた1学期に各小中学校で、交通安全教室を開催した。 ・学校運営の支援業務 小学校5校に日々雇用職員の学校用務員の配置を行った。		【取組への課題】 ・現在の学校評議員意見聴取報告書では、意見に対する学校の対応が把握できない。		H24 決算	8,366
						H25 予算	12,741
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・様式等を改正し、学校評議員の意見に対する学校の対応について把握し、保護者や地域住民の意向を反映した開かれた学校運営に努めていく。		H25 決算	11,928
						H26 予算	14,635
③	栄っ子夢・元氣プロジェクト推進事業	・栄っ子夢・元氣プロジェクト推進事業 平成21年度より竜角寺台小学校が実施し、23年度から、新たに安食小学校、北辺田小学校が学校支援地域本部を設立して、コーディネーターを配置し、学校を支援するボランティアの組織化に取り組んでいる。 各学校でボランティアだよりなどを発行し、活動の周知を図った。		【取組への課題】 各学校においてボランティアの組織化がされ、学校からのニーズも増えているが活動できる人材が固定化されてしまい、ボランティアの負担が偏っているためボランティアの人数を確保していく必要がある。		H24 決算	756
						H25 予算	677
				【課題を踏まえ26年度の対応】 地域に向けたボランティアだよりの発行回数を少なくとも学期に1回、年4回発行するとともに、コーディネーターが地域で活動する団体(老人クラブ・自治会・サークルなど)に対し、事業のPRをしながら人材確保に努める。		H25 決算	539
						H26 予算	726
④	教職員等の適正配置事業	・教職員の服務 昇給内申等に関する業務・教職員人事評価に関する業務 教職員の昇給内申事務、産休・育休に関する業務、履歴事項に関する業務など教職員の服務に関する業務を適切に行った。 療休代替職員として、町負担の事故対策教員を2か月配置した。 ・学級編制に関する業務 教職員の適正配置、適正な学級編制を実施した。		【取組への課題】 ・教職員が疾病等のため病気療養に入った場合、県の講師等が配置されるまで、教職員が欠員状態となり、児童生徒の授業等に大きな影響が生じ、また他の教職員の負担増にもなり、学校運営に支障が出る。		H24 決算	148
						H25 予算	164
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・県の講師等が配置されるまでの間、学校運営に影響が出ないよう、町負担による事故対策教員を配置する。		H25 決算	164
						H26 予算	124
合 計						H24 決算	9,270
						H25 予算	14,075
						H25 決算	12,859
						H26 予算	24,595

施策評価シート							
1. 施策の情報整理							
施 策 名		きめ細かな学校教育の推進					
現状と課題		栄町では、「教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたち同士が「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。 自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。					
施策の情報整理	目指す成果	一人ひとりの個性を活かし、基礎・基本を徹底させ、思考力・表現力を伸ばす教育により、確かな学力と豊かな心を持ち、社会の変化に対応でき、たくましく生きられる児童生徒が育成されている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		千葉県標準学力検査の県平均との比較の結果	小35% 中13.3% (H23)	小90% 中60%	小90% 中60%	小95% 中70%	各校2月に実施される学力検査の結果が県の平均に到達している小・中学校の教科割合
	成果目標の達成度(★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	31,193 千円
			29,697 千円				
	達成度の理由	目標値の設定当時の考え方は町内小学校、中学校それぞれの延べの教科数のうち、県平均を上回った延べの教科数の割合で設定していたが、町の学力という観点から考えると、町平均との比較によることが妥当であると判断して、数値の捉え方を変更した。 町平均と県平均との比較(町の小学校、中学校それぞれの教科数のうち、県平均を上回った教科数の割合)でみてみると、小学校90%、中学校40%となり、実績値が目標値の8割を超えたことから、「ほぼ達成」と評価した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	運動能力証の交付を受けた児童生徒数が296名(対前年比28名増加)となり、交付率が対前年度比3.8ポイント伸び、37.6%となった。 小中学校別の交付率を見てみると、小学校35.1%、中学校38.9%となっており、それぞれ郡市平均(小学校29.3%、中学校25.0%)を上回っている。					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・教職員のモラルアップに対する取組 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり(統合後の児童生徒の心のケア)					
住民との協働や他課の事業との連携	・月1回、要保護児童に関する情報交換を、福祉課、健康保険課と行った。						
2. 事務事業の取り組み							
(単位:千円)							
事務事業名		平成25年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
①	学力向上プラン推進事業	・授業改善推進業務 ・栄町学力向上推進事業 学力スタンダードを活用した取組においては、児童・生徒の漢字・計算の基本的技能の向上に寄与し、千葉県標準学力テストにおいても、前年度の数値を上回るものが多かった。 ・栄町学習道場(わくわくドラム)事業 7月～8月にかけて、「基礎学力充実コース(15回)」と「プロジェクト研究コース(16回)」を実施し、夏季休業中の児童・生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。		【取組への課題】 学力テストの県平均を上回っていない学校がある。		H24 決算	688
						H25 予算	615
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・学力スタンダードの活用を推進する。 ・「学力パワーアップ総合月間」の充実を図る。 ・放課後における学習支援のため安食台小学校へ学習サポーターを派遣する。 ・年間を通して、「サタデーわくドラ」として栄町学習道場を隔週土曜日に開催する。		H25 決算	615
						H26 予算	1,328
②	個に応じた授業改善推進事業	・指導法改善推進業務 小学校5校に学校支援教員を配置し、また1校に複式対応教員を配置した。 ・特別支援教育整備業務 小学校2校、中学校1校に介助員を配置した。 ・心身障害児教育、就学指導委員会運営業務 就学指導委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。		【取組への課題】 ・年々特別支援を必要とする児童生徒が増えている		H24 決算	15,592
						H25 予算	18,929
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・保護者の意向を踏まえ、適切に対応していく。		H25 決算	17,731
						H26 予算	18,699

③	豊かな心、健やかな体づくり教育推進事業	・教育相談体制整備業務 教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置した。 ・教育支援センター運営事業 不登校児童生徒は小学校1人、中学校3人おり、「ゆうがく館」に指導員を配置し、不登校児童・生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。 ・生徒指導支援業務 生徒指導担当者会議を7回開催し情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。 ・学校人権・道徳教育推進業務 指導主事が学校に出向き、道徳教育について指導・助言した。 ・体力向上、健康増進教育推進業務 毎年、新体力テストを実施し、食育の推進を行った。 ・学校図書館教育推進業務 緊急雇用事業により学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。	【取組への課題】 ・24年度で緊急雇用による図書館司書の配置が終了となる。 ・スクールカウンセラーの必要性が高まっている。	H24 決算	7,154
				H25 予算	6,291
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・児童・生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・前年度同様、SCを小学校1校に1人配置する。	H25 決算	6,152
				H26 予算	6,208
④	国際化に対応した人間教育事業	・小・中学校外国語教育推進業務 中学校には外国語指導助手（ALT）を、小学校には国際理解教育指導員をして配置し、各学校の英語活動の指導の支援を行った。	【取組への課題】 ・小学校に配置されている国際理解教育指導員は日本人であるが、英語教育活動のより一層の充実を考えた場合、外国人指導員の配置が効果的である。	H24 決算	4,410
				H24 予算	4,426
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・来年度へ向けて、外国人指導員の配置について予算及び人材の確保について検討する。	H25 決算	4,391
				H26 予算	4,685
⑤	学校教育を担う人材の育成支援事業	・教職員研修支援業務 各学校の校内研修会の開催の支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金の補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。	【取組への課題】 ・教職員の不祥事が発生を根絶するための研修会の在り方について考慮する必要がある。	H24 決算	816
				H25 予算	932
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・OJTや研修の充実させ、教職員の資質向上を図る。	H25 決算	808
				H26 予算	886
合 計				H24 決算	28,660
				H25 予算	31,193
				H25 決算	29,697
				H26 予算	31,806

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学習環境の充実					
現状と課題		町の人口減少と共に少子化による児童・生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするため、学校規模適正化の検討結果による影響を勘案した学習環境の整備が必要である。					
施策の 情報 整理	目指す成果	児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、健康面でも安心して学校生活が送れるようになっている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		児童生徒に向けた学校評価	90.5% (H23)	93%	94%	95%	児童・生徒が学校生活を満足している割合
	89%			91%	(実績)		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		54,921 千円	
						55,312 千円	
	達成度の理由	学校評価における児童・生徒アンケートから、「学校生活を満足している」ことに関連した質問に対する各校の割合の平均が90.5%であり、成果指標の9割以上を達成していることから、「ほぼ達成」と評価した。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応						
住民との協働や他課の事業との連携	・健康保険課(食育・歯科保健指導) ・教育総務課(施設管理)						

2. 事務事業の取り組み		(単位:千円)
--------------	--	---------

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）		事業費	
① 学習環境整備事業		・教科書採択及び教科書給与業務 教科書の給与業務を適切に行った。 ・教材備品・理科教育等設備備品整備業務 緊急経済対策を活用し理科振興備品を購入した。 ・補助金交付業務 「学校教育振興会補助金」「生徒ヘルメット補助金」の交付業務 ・学校教育振興・運営業務 各学校へ予算配当し適切に執行管理を行った。	【取組への課題】 27年度の統合を踏まえ、理科備品を含む学校備品の整理をおこない、学校間で過不足なく且つ円滑に交換、配分ができるように準備を進める必要がある。	H24 決算	8,713	
				H25 予算	15,256	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 移動備品、廃棄備品の処理ができるようデータの整理、現場確認を行い適正な予算を計上する。また平成27年4月1日の統合に支障が出ないよう、備品等の移動を迅速におこなう。	H25 決算	15,915	
				H26 予算	10,677	
② 学校保健衛生事業		・定期健康診断業務・生活習慣病予防健診業務 児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・ぎょう虫卵検査・脊柱側弯症検診・心電図検査・結核検診・尿検査を実施した。 中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防検診を行った。 ・学校保健に関する業務 栄町学校保健会の事務局として学校医、学校歯科医の健診の日程調整を行った。 ・学校衛生管理業務 学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。 ・災害共済給付に関する業務 学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。	【取組への課題】 ・定期健康診断で再検が必要となった児童生徒についての初診料負担が生じる医療機関と生じない医療機関がある。 ・学校現場における保健意識の向上	H24 決算	7,490	
				H25 予算	7,682	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・健診結果の通知の様式を統一し医師の署名欄を設け、紹介状扱いとしてもらうことで、初診料の負担が生じないよう関係医療機関と調整する。 ・養護教諭、一般教諭を対象に研修会を開催する。	H25 決算	7,498	
				H26 予算	7,689	

③	就学支援事業	・要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 ・特別支援教育就学奨励業務 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。	【取組への課題】 ・国の要綱に定められている全ての項目について支援を行っているわけではない。	H24 決算	5,507
				H25 予算	5,501
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・他市町村の状況を踏まえ、支援の拡大について引き続き検討する。準要保護児童については、単独事業となるため、財政と協議する。	H25 決算	5,425
				H26 予算	7,640
④	私立幼稚園就園奨励費補助事業	・私立幼稚園就園奨励費補助業務 私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度（世帯構成と町民税所得割課税を確認）に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。	【取組への課題】 就園奨励費について、年少扶養控除廃止の影響をできる限り排除するため、世帯階層の認定について国の基準が改正される。	H24 決算	22,108
				H25 予算	25,865
			【課題を踏まえ26年度の対応】 国の基準の改正を踏まえ、適切に対応していく。	H25 決算	25,864
				H26 予算	33,298
⑤	就学事務の適正化推進事業	・通学区域に関する業務 通学区域審議会を開催し、小中学校再編事業の進捗状況、小中学校再編後の通学区域、通学手段及び就学指定校の変更についての報告をおこなった。 ・就学時健康診断業務 学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。小学校への就学前児童の就学時健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。就学に関わる事務を適切に行った。 ・学籍管理・学校の就学に関する業務 ・学齢簿に関する業務 学齢簿に関する業務として、就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。 ・各種調査研究・統計に関する業務	【取組への課題】 ・小中学校の統廃合に伴う通学区域の変更を行う必要がある。	H24 決算	471
				H25 予算	617
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・小中学校設置条例を改正し、通学区域の変更を行う。	H25 決算	610
				H26 予算	713
合 計				H24 決算	44,289
				H25 予算	54,921
				H25 決算	55,312
				H26 予算	60,017

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学校給食の充実					
現状と課題		近年「食の安全性」に関して不安視される事例がメディア等で多く見受けられる。このような状況下、町は児童・生徒に安心安全な給食を提供することが責務であることから給食食材の調達・調理・配送の工程管理において安全衛生基準の徹底を図る必要がある。 また、「食育」を通じて給食の意義必要性を児童生徒が理解し、その結果、給食残菜の軽減化に繋がるような指導体制について求められている。					
施策の情報整理	目指す成果	児童・生徒やその保護者が、給食の安全性や、栄養バランスの大切さ、地元生産者の食材利用について理解している。児童・生徒に給食を残さず食べようという意識が育っている。					
	施策の目指す成果指標及び実績		現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		児童・生徒の給食を食べた量の割合(%)	78% (H23)	90%	90%	90%	供給量に対する喫食率
	成果目標の達成度 (★★★★)	★★	目標を達成(100%)★★★★ 目標をほぼ達成(80%以上)★★★ 目標を達成していない★ 現時点では判定できない—			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	168,712 千円
							166,300 千円
	達成度の理由	各学校に栄養指導及び給食指導に入るとともに、試食会等を通じて保護者に対しても食の指導を行い、食習慣を見直してもらう機会を設けた。目標値には至らなかったが前年度よりは喫食率は上昇傾向にある。また、各小中学校における喫食率には差異があるため、各校の喫食状況を精査し目標値に反映させる必要がある。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	○施設維持管理事業:調理場設備の経年劣化による老朽化が懸念されるため、適正な機器の更新及び修繕を計画的に進めていく。 ○給食費徴収事業:平成25年度中に消費税増税に伴う給食費の料金改正を行ったが、今後予想される消費税10%に対する対応について検討していく。 ○給食事業:元気さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子ども達が自らの食について考え、選択する判断力を身につけさせ、生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことで、残菜量を確実に減らしていく。また、食物アレルギーを持つ児童生徒のアナフィラキシーショックに対する対応が求められている					
住民との協働や他課の事業との連携	産業課(地産地消での連携)						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)	事業費	
① 施設維持管理事業		国の交付金を活用し、老朽化した厨房機器の更新を行う。 (更新機器) フライヤー1台、冷凍冷蔵庫2台、真空冷却機1台 マイコンスライサー2台	【取組への課題】 今回更新した厨房機器以外にも更新時期が迫ってきている機種が複数あり、今後財源を確保し計画的に更新を行っていく必要がある。	H24 決算	4,424
				H25 予算	24,442
			【課題を踏まえ26年度の対応】 厨房機器の更新計画に基づき、購入予算の財源について関係機関と協議し平成27年度予算に反映する。	H25 決算	22,998
				H26 予算	4,284
② 給食費徴収事業		○消費税導入に伴う給食費の料金改正を行う。 ○保護者に対し給食費の適正な賦課を行い、未納者には督促状・催告書の送付を実施し、滞納額の減少に努めた。また、児童手当からの徴収を行う。	【取組への課題】 現年度未納者への督促・催告等を実施したが、昨年度と比較し収納率においてはほぼ横ばいの状況である。	H24 決算	133
				H25 予算	155
			【課題を踏まえ26年度の対応】 引き続き、給食費未納者に対しては徴収事務取扱要綱に基づき適正な徴収を行う。また、長期にわたる未納者に対しては各学校と連携しながら直接交渉し納付に関する理解を求めていく。	H25 決算	116
				H26 予算	153
③ 給食事業		○食材の調達、調理、配送に際し徹底した安全衛生基準に基づいた給食事業を実施し、食中毒・異物混入といった健康被害にあたる事例は無かった。 ○「元氣さかえ食育推進プラン」を推進し栄養士による食に関する指導を行った。 給食指導:小中学校各1回訪問(1学期) 栄養指導:小中学校各4~6回(2・3学期)	【取組への課題】 ・調理業務・配送業務の長期委託契約が平成26年度7月で終了するため委託契約の更新が必要。 ・栄養指導・各小中学校と連携し給食残菜の減少に努め前年度比較4ポイント摂取率の向上に繋がった。	H24 決算	147,371
				H25 予算	144,115
			【課題を踏まえ26年度の対応】 ・業務委託契約の更新に際し、来年度の学校統合を踏まえた業務内容の精査を行う。 ・学校、家庭、地域が一体となり食育の推進を図る。	H25 決算	143,186
				H26 予算	146,110
合 計				H24 決算	151,928
				H25 予算	168,712
				H25 決算	166,300
				H26 予算	150,547

学識経験者の意見（基本方針（１）について）

【施策名：教育行政の充実】

- ・ 施策の目指す成果指標及び実績について、H24 年度より実績が下がっている。原因は何か。
- ・ 限られた予算で、いろいろな工夫をして努力されていることを感じた。特に人材の活用や基礎基本の学力向上プランなどが、非常に丁寧に取り組まれている印象を受けた。それなのに、評価が「★」（目標を達成していない）ということである。目標を達成（１００％）でなければ「★★★」としないという厳しい姿勢は大切なことではあるが、多くの方々に理解を得るには、この評価はいかがなものか。評価は基準をどこに置くかで大きく変わってしまうので、この評価は残念に思う。どの評価シートにおいても感じるの、ある１部分を取り上げて評価をしており、部分評価である。この部分と部分を集めて全体の評価をしてしまうのは、果たしていいものなのか。これが、「★」の評価につながってしまっている原因ではないかという印象を持った。もっと適切な表現がないものかと思う。
- ・ 行政全般について感じたことは、このシート内容を通して平成２５年度は学校の統廃合に向けて最後の調整の１年ということで努力されたという印象を持った。

【施策名：学校施設の整備】

- ・ 統合に向けて、統合校は校舎の改修等に取り組んでいるが、来年度までに完了できるのか。
- ・ 電気のＬＥＤ化はできるのか。
- ・ 耐震化率が１００％を達成しており素晴らしい。その次に何をすることが問題だが、空調やトイレ洋式化について他市町は進んでいる。ＬＥＤは確かに電気料が半額になるが、工事費がそれ以上にかかるので大規模改修などの機会にあわせて進めていくようにお願いしたい。
- ・ 予算額 410,174 千円に対し決算が 162,316 千円となっているが、平成２６年度に繰越ししているとのことなので執行についてしっかりお願いしたい。
- ・ 跡地利用について、布鎌はいろいろなことをしたが失敗した前例があるので、酒直・北辺田小については工夫して進めてほしい。

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・ 得てして、アンケート（パブリックコメント含む）を実施し、回答数が少ないにも関わらず、それを全体のアンケート結果だとする傾向があるが、保護者アンケートの分母（アンケート参加数）の数はどのくらいか。保護者総数からみてどのくらいあったか。
- ・ ③栄っ子夢・元気プロジェクト推進事業で、小学校の統合により安食台小学区は酒直、北辺田が入り３つの地区になる。この事業を進めていくにあたり３つの地区の連携をどのように進めていくのか。
- ・ このアンケートは教育委員会が独自で行ったものか、もしくは学校評価アンケートか。学校支援ボランティアへのニーズが４５事業（H23）から５３事業（H24）と増えているようだが H25 はどうか。

- ・小・中学校の再編事業がスムーズに進んでおり、大変努力されたと思うが、それが出来て良かったと満足するのではなく、むしろスタートラインとして、これから先の子どもたちの心のケアや学習環境、安全の確保の問題に引き続き取り組んでいただきたいというのが一番の願いである。
- ・教育相談員等の配置について、毎日配置しているわけではないと思うが、どの位の割合で配置できているのか。学校数が少なくなった分を補強にまわしていただきたい。
- ・このシートでは主な事業として4つがあがっているが、教育要覧を見ると特色ある学校づくりの支援として9項目があがっている。この中の目玉であるキャリア教育があると思うが、これがシート中の主な取り組みとして触れられていないのはなぜか。
- ・特色ある学校づくりを進めるにあたり、もっとふれプラ（ふれあいプラザさかえ）の事業やサークル活動と連携できたらいいのではないかと考えている。学校では、地域とのつながりということで、地域の人材（ふれあい推進委員等）に来ていただいているいろいろなことを行っている。ふれプラやサークル活動をされている方々が学校の支援・連携に力を発揮していただくことで（例：書道をやっている方が学校に来て子どもたちを指導する等）、その方の励みにもなるし、子どもたちも丁寧に教えていただけるというように両方に良さがあると思う。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・わくわくドラムの平成25年度における目に見えた成果はどのようなものか。
- ・一番強く感じたのは、様々な学校支援教員、複式対応教員、介助員を町単独で配置されており素晴らしく、評価させていただいた。人材もなかなか見つからず、できそうできないことだと思うが、足を運ばれて準備されたことだと思う。
- ・千葉県の学力テストの平均で栄町の学力状況を確認したとのことだが、どちらかというと全国学力状況調査の方が本来の学力を測れるのではないかと考えているが、栄町はどうだったのか。
- ・P7③で取り組みへの課題として、平成24年度で図書館司書の配置が終了となっている。予算、決算が増えていないが平成25年度はどのようにしたのか。
- ・教職員の研修で、今年6月にOECDの世界の教職員の労働時間が話題になった。世界平均が週38時間だったのに対し、日本は54時間であった。働きすぎではないかということが話題になったが栄町ではどうか。忙しさが不祥事につながらないように教育委員会としてしっかりとお願いしたい。

【施策名：学習環境の充実】

- ・参考に確認した、昨年度（平成24年度対象分）の点検・評価報告書（P15）を見ると、就学援助費に関する今後の取組みとして、「文部科学省が支給基準を定めていますが、実際に支給する項目は教育委員会が決定することになっています。栄町の支給項目を印旛郡内の他市町と比較したところ、ほぼ同じであり、文部科学省の定める項目の全てを支給している市町はありません。他市町の動向を踏まえたうえで、教育委員会としての対応を検討してまいります。」とあったが、他市町の動向にこだわらずに栄町独自（例えば、印西市や成田市と比べてここのはだめかもしれないけれど、この事に関しては抜きんでいる）のことという考え方を取り入れていただけたらいいなと感じた。

- ・人口減少は、学校だけでなく町全体の懸案事項なので他の部署と連携して、私たちの子ども世代が栄町にUターンで戻ってくるような施策を考えていただきたい。
- ・支援の必要な子どもたちについて、民生委員と学校が情報交換を具体的に行っているか。（その子の服装や持ち物、食べているかなどを気付くのは担任なので情報交換の機会があるとありがたいと思う。）
- ・学習環境の充実については、評価を「児童・生徒が学校生活を満足している割合」としておりアンケートの1項目を基にしているが、子どもたちは学校生活を満足しているかについては友達関係や勉強のことについて評価するのではないか。自分たちの学習環境がどのように整備されているかということに対して、こういう評価を果たしているのかということが気になることである。大きく言えば、安心して学習できる環境が整っているという意味では満足しているということになるのだろうが、どうなのかという印象を持った。
- ・今後の課題として、アナフィラキシーショックの対応が予想されているが、エピペンを利用されているお子さんはいるのか。
- ・たくさんのことがあり、とても大変だと思うが子どもたちの大事な学習環境をこれからも整備していただきたい。

【施策名：学校給食の充実】

- ・30年近く経ち、施設の老朽化に対応すべきだと思うが、5,000食/日を対応できるだけの能力のある建物が、現在は1,400~1,500食/日を作っているということで、稼働率は30%程度になっている。今後も児童・生徒の減少が予測される中で、今の規模のままで老朽化への対応をおこなうのか、減少にあった適正な（調理器具等も小さいものにしていくなど）規模にあわせて行うのか。
- ・人的には難しいかもしれないが、空いている場所をアレルギー対策（アレルギーに応じた食事を作る場所）にもできるのではないか。アレルギーはこれから多くなるので、少しずつでも対策していくことを検討してくれるとありがたい。お弁当をつくる保護者の負担は大変なものがあると思う。
- ・食材の徹底した安全管理で健康被害もなくおいしい給食を作っているということで、大変すばらしいと思うが、食物アレルギーは重要な問題と言われているので取り組んでいただけたらと思う。
- ・給食費の徴収については、どこも苦労されているが、徴収率が昨年度、今年度とも98%ということは同じ方が払われていないということか。もしそうだとするならば同じ方法で督促しても意味が無い。工夫をしていかないと5年経っても数値は変わらないのではないか。
- ・栄町は児童・生徒が残さずに食べるということに対して、保護者からクレームはないのか。食事の量の問題も家庭によっていろいろな考え方があり、食べた割合が100%ということは足りないということであり、20%位は余って当然ではないかという考え方もあるので、平成25年度実績の85%という数字は素晴らしい成績であると言える。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

教育総務課より

【施策名：教育行政の充実】

- ・ 成果指標の設定を、教育委員会所管の主要事業１２施策について目標達成した割合としており、達成度が目標を達成（１００％）★★★した施策の割合としていることから、目標を達成（１００％）★★★した施策が平成２４年度の８施策に対し、平成２５年度は５施策に減ったことにより結果として実績が下がったものです。しかしながら、目標をほぼ達成（８０％）★★している５施策と合わせると１０施策が８０％を超えている状況です。
- ・ 成果指標の設定は、前期基本計画（Ｈ２３～Ｈ２６）で使用しているものなので、今後策定する後期基本計画（Ｈ２７～Ｈ３０）においては、いただいたご意見のとおり、町民の方々にご理解をいただけるような評価基準となるよう成果指標の設定を検討してまいります。

【施策名：学校施設の整備】

- ・ 小学校の統合校である安食台小学校の大規模改造工事については、資材の高騰により入札が不調になるなど、契約成立が当初の予定より遅くなり、実際に工事を始めたのは夏休み前になってしまったという経緯があります。このため、工期を平成２７年３月２７日まで伸ばしています。幸いにも、工事は順調に進んでおり、教室の床、壁、天井、廊下、階段等の全面塗り替え、トイレの洋式化改修など、予定通り完了できる見通しとなっております。
- 一方、中学校の統合校である栄中学校空調機設置工事については、入札、契約とも滞りなく成立し、工期は平成２７年１月３０日までとなっています。各普通教室、特別教室とも順調に設置され、電気工事も含め、こちらも予定通り完了できる見通しとなっております。
- ・ 電気のＬＥＤ化については、必要性については認識しておりますが、まずは、夏場の暑さ対策のための空調機設置を最優先とし、その次に子どもたちの生活スタイルの変化に合わせたトイレの洋式化というように考えております。次年度以降は、学習環境の改善につながるような施設設備の改修をしていきたいと考えておりますが、他市町の状況を踏まえ検討してまいります。
- ・ 安食台大規模改造工事および栄中学校空調機設置工事を平成２５年度から平成２６年度へ繰り越して実施していることから、平成２５年度の予算額に対して決算額が少なくなっているものです。
- ・ 跡地利用については、栄東中学校は、県立特別支援学校として利用されることになっております。北辺田・酒直小学校については、それぞれ創立１２０年以上の歴史ある学校であることから、できれば地元で活用していただきたいと考えておりました。地元貢献のできる団体がいくつか出てきていますので、関係部署と協議を重ねて決定していきたいと考えております。

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・アンケートの回収数は 1,873 であり、アンケート回収率はおおむね 90%程度となっております。
- ・安食台小、北辺田小、酒直小の各小学校の統合による、栄っこ夢・元気プロジェクト推進事業の方法・手段等については、現在、学校支援本部事業として北辺田小学校が実施している内容を新たに安食台小学校で継承して進めることとしております。酒直小学校についても安食台小学校に統合されることから同様に、新たに事業を推進してまいります。（3校を一括した新生安食台小学校で栄っこ夢・元気プロジェクト推進事業を実施いたします。）

また、学校支援本部事業については、地域のコーディネーターを 1 名程度配置し進める事としておりますが、統合により学区の範囲が広がることから旧学区内で 1 名ずつコーディネーターが必要と考えております。

事業内容については、特色ある学校運営と地域の結びつきを考え、先進地である竜角寺台小学校を参考に、旧北辺田小学校の支援本部事業の一部を取り入れ実施していく予定です。

- ・ご指摘のアンケートは各学校がおこなっている学校評価アンケートです。学校支援ボランティアへのニーズは H25 は 57 事業で、地域の人材活用の方がますます広がっているといえることができます。
- ・これまでも、北辺田小学校、酒直小学校、安食台小学校の 3 校で合同行事や合同授業を行い、児童同士の交流を図ってまいりました。栄中と栄東中でも合同行事や合同の部活動などを行っております。統合した後も児童・生徒の様子を学校で的確に把握して適切な指導を行い、心のケアに努め、新しい環境での学校生活が楽しいものになるようにしてまいります。

また、通学路の安全については、教育委員会としては本年度も通学路点検を行い、児童・生徒の交通安全環境整備を行っており、学校では警察や安全協会の方々と交通安全指導（交通安全教室）を実施し、児童・生徒への安全意識の啓発をおこなっております。

- ・ご指摘のとおり、点検・評価報告書のシートは予算の事務事業の項目でございますので、教育要覧の記述とは必ずしも同じ記載とはなっておりません。キャリア教育は各学校の取り組みを教育委員会として支援・指導しているものです。

しかし、教育要覧に掲載されている内容については教育委員会が推進し、また支援していく事業であることに変わりはありません。

- ・教育相談員は、週 2 回ふれあいプラザ 2 階教育支援センター（ゆうがく館）で子育て全般に関わる相談を行っております。また、町の事業として、小学校にスクールカウンセラーを月 1 回程度派遣しており、ゆうがく館には指導員を配置し、不登校の児童生徒の支援を行っております。なお、中学校には県からスクールカウンセラーが配置されております。

教育相談に関する学校のニーズは非常に高く、県も順次小学校に配置を行なっている状況にあります。町といたしましては今後も県に対し、スクールカウンセラー増置を要望してまいります。

- ・学校・地域の連携については、各学校が計画的に地域の人材をゲストティーチャーとして活用した授業を実施しており、良い関係が構築されていると考えております。

今後も引き続き地域人材の活用を推進してまいります。

【施策名：きめ細やかな学校教育の推進】

- ・ わくわくドラムの平成25年度における成果は次のとおりです。
 - ①児童生徒の基礎学力の充実が図られました。
 - ②平成25年10月より、毎月第1第3土曜日にサタデーわくドラを開催し、小学校3・4年生の学力向上を図っております。
 - ③平成25年冬季休業より、ウインターわくドラを3日間開催し、小学校1年生から中学校3年生までの学習到達度がわかるテストを実施しました。その結果を各小中学校にフィードバックして、3学期からのまとめの学習に活かしております。
- ・ 人材発見のために、教育委員会と町の小中学校が連携して幅広く人材を確保しました。
- ・ 千葉県標準学力テストは、小学校1年生から中学校3年生まで、すべての学年が実施対象です。全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生が実施対象です。栄町教育委員会といたしましては、両方の調査を分析して、児童生徒の学力向上策に取り組んでいるところです。
- ・ 平成25年度も、平成24年度と同様に、町の雇用として、図書館司書4名を配置しました。
- ・ 町の各学校においても、残業時間が増加の傾向にあります。教育委員会といたしましては、校務分掌の見直しや、学校事務の軽減化やICT化を進め、勤務時間が超過しないよう指導しております。

また、不祥事防止研修会を各学校で必ず実施し、教育委員会指導主事が学校に赴き、不祥事防止の指導を繰り返し行なってまいります。

【施策名：学習環境の充実】

- ・ 就学援助に関しては近隣市町村とほぼ同じ項目を助成しており、栄町独自としては千葉県市町村交通災害共済掛金を助成しております。

また、就学援助申請は地区民生委員と学校長の連名ですので、申請にあたり情報の交換はなされていると解釈しております。
- ・ 人口減少の問題については、町の各課による施策と連携し、魅力ある教育環境を整えてまいります。
- ・ 成果指標の数値のもとになるアンケートの設問についてはご指摘のとおりです。

しかし、平成26年度のアンケート指定項目（教育委員会が学校に依頼してアンケートに入れてもらっている設問）については既に学校に周知済で変更は難しいため、平成27年度のアンケートから成果指標の目標数値に合致した回答が得られるような設問に替えてまいります。
- ・ エピペンを所持している児童生徒は現在5名です。対応としては万が一に備え、医師の診断のもとエピペンを2本処方してもらい、うち1本は学校保管としております。

また、発症の際に迅速且つ適正な対応ができるよう、教職員に対して実演によるエピペン使用研修会を実施しました。平成26年度は千葉県食物アレルギー対応マニュアルを参考に町のマニュアルを作成いたします。

【施策名：学校給食の充実】

- ・施設の老朽化に伴う設備・機器の不具合は調理業務に支障をきたすとともに施設内の衛生管理の低下にもつながることから、今後施設の状況をしっかりと把握し給食食数の規模に応じた計画的な躯体の修繕及び厨房機器の更新等、衛生基準にもとづいた施設の機能維持管理を図ってまいります。
- ・食物アレルギーを持つ児童生徒に対しては、学校及び保護者に対して事前にアレルギーが含まれる給食メニューに関する情報提供を行っており、これに伴う除去食等の対応は現状では行っていません。しかしながら、今後他市町の動向を踏まえながら検討課題とさせていただきます。
- ・食物アレルギーによる健康被害を防止するため今後も学校・家庭と情報の共有を図りアレルギーを含む食材の取扱いについて慎重に取り組んでまいります。
- ・学校給食費の未収納対策については、各小中学校に定期的に収納状況を報告するとともに未納世帯への納付相談について学校と協力、連携を図って対応に努めております。今後も未納世帯に対しては督促の強化及び児童手当制度の活用 of 推進を行ってまいります。
- ・食育を通じた残菜の減量化について今後も取り組んでまいります。

基本方針（２）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施 策 名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 9
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 0
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 1

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 2

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・ P 2 4



施策評価シート							
1. 施策の情報整理							
施 策 名		生涯学習環境の充実					
現状と課題		・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 ・子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、社会性を育むための機会が少なくなっている。 ・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。					
施策の 情報 整理	目指す成果	「個々のニーズ」や「社会変化への要請」に応じた学習機会が提供され、町民は学習した成果を個々の生活や地域の教育活動に生かしている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		生涯学習ボランティア登録者数	666人 (H23)	670人 698人	700人 684人	710人 (実績)	学習アドバイザー／図書室ボランティア／ふれあい推進委員／こども110番協力家庭
	成果目標の達成度(★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)		3,003 千円 2,632 千円
	達成度の理由	子どもが地域の中で安全に、安心して過ごすことのできる居場所づくりや、様々な体験活動、異世代交流の場づくりについては、各小学校区でのふれあい推進委員会をはじめ、青少年相談員や子ども会などの青少年関係関係団体の活動が活発に展開されており、子どもの参加率は全体で30%を超えている。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	・放課後ふれあい教室(布鎌小・安食台小)の児童登録率は両校とも約4分の1となり、参加児童・保護者双方の教室に対する満足度は高い。 ・講座参加者による新たなサークル団体が1つ発足した。(おやじの台所)					
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用 ・家庭や地域と連携した安全安心の確保 ・学校統廃合に向けた子どもたちへの交流機会の提供と活動支援 ・多様な学習情報の提供					
住民との協働や他課の事業との連携	当施策の事業は、全て関係団体との協働なくして進めることができない。全ての小学校区に設立された「ふれあい推進委員会」では、北辺田小学校区における、世代を超えて地域住民が一堂に参加する「ふれあい盆踊り大会」をはじめ、学校・PTAとの協力によるサマーキャンプなど、各地域の特性に応じた「ふれあい交流事業」が実施されている。また、「放課後ふれあい教室」と「ドラム自然楽校」では、ふれあい推進委員会や青少年関係団体、さらには地域のボランティアの活用により、子どもたちへの学習、遊び、体験などの機会を充実させることができた。						
2. 事務事業の取り組み (単位:千円)							
事務事業名		平成25年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
① 地域教育力活用・支援事業		青少年の健全育成のため、学校・家庭・地域が連携を図り、以下の取り組みを推進した。 ○家庭教育学級の支援 (35回開催:参加者1,618人) ○こども110番活動の推進 (登録世帯数:470戸) ○PTA活動の支援 ○子ども会育成連絡協議会活動の支援 (9回開催:参加者220人) ○青少年相談員活動の支援 (7回開催:参加者273人) ○地域ふれあい交流事業の推進 (25回開催:参加者1,064人) ○放課後ふれあい教室の運営 (2校:参加者581人) ○自然体験活動の推進 (10回開催:参加者414人) ○成人式の開催(参加者180人)	【取組への課題】 子どもの成長に合わせて様々な体験ができるよう、地域社会や保護者に積極的に働きかける必要がある。そのため、地域や行政、学校、関係団体等が子どもや保護者が参加できる体験活動の機会を充実させるとともに、体験活動に関する情報提供を行うなど、学校・家庭・地域が連携して体験活動を推進していく必要がある。 【課題を踏まえ26年度の対応】 体験活動に係る年間のメニューを広く子どもや保護者にPRするため、広報やHP、行政回覧を活用し積極的な啓発に努めるとともに、各事業の内容もより魅力的で興味を引くように見直しを図る。	H24 決算		1,575	
				H25 予算		2,683	
				H25 決算		2,442	
				H26 予算		1,920	
② 生涯学習推進事業		団塊の世代の活動支援など社会的な課題に対応した各種講座と、長期休養期間中におけるキッズ教室を開催した。 ○いきいき塾さかえ講座 (26回開催:参加者237人) ○学習アドバイザー事業 (9回開催:参加者32人)	【取組への課題】 内容がマンネリ化し、参加者数が低調な講座もでている。 魅力ある講座の企画と情報の積極的な発信を行う必要がある。 【課題を踏まえ26年度の対応】 新たな講師の発掘により魅力ある講座を開催し、受講者満足度の向上を図る。	H24 決算		243	
				H25 予算		320	
				H25 決算		191	
				H26 予算		316	
合 計					H24 決算		1,818
					H25 予算		3,003
					H25 決算		2,633
					H26 予算		2,236

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		生涯学習資料の充実					
現状と課題		・町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 ・地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 ・学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。					
施策の情報整理	目指す成果	図書資料等を活用した学習や、さまざまな分野から得られる学習情報等を通じて、町民は町内のあらゆるところで自分にあった学習を行っている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明
		図書等サービス利用者数	15,004人 (H23)	15,000人 18,288人	18,408人 18,665人	18,528人 (実績)	図書室利用者数／視聴覚教材利用者数／読書教育参加者数
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	4,329 千円 4,325 千円
	達成度の理由	図書室利用者数に限っても、H23=12,975人、H24=15,065人、H25=15,426人と年々増加し、貸出冊数も利用者に比例して同様な傾向にある。					
	設定成果指標以外に現れた成果の説明						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・レファレンスサービスの充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、学校図書館への支援を積極的に行っていく。					
	住民との協働や他課の事業との連携	子どもたちが絵本・おはなし・映画に親しみ、心豊かな感性を育みながら読書に慣れ親しむよう、図書室ボランティア(おはなしの会・人形劇バレット)や映写ボランティアと連携し、おはなし会や人形劇などの読書普及活動を展開した。					

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
① 図書室管理運営事業		生活関連本を中心に蔵書を充実させたほか、学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を開催し、子どもたちの読書活動の支援に努めた。 ○レファレンスを含む窓口サービス業務の充実 ○蔵書整備業務(購入662冊／寄贈659冊) ○学校貸し出し216回	【取組への課題】 年代別の利用状況を見ると、中高校生の利用が圧倒的に少なく、これら世代の読書活動を普及させる方策が必要となっている。	H24 決算	4,202	
				H25 予算	4,329	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 1階資料閲覧室は、中高校生にとって自主学習の場としての利用が定着していることから、読書活動に関する理解の普及を図るため、同室にて図書情報を広く提供する他、実用書の選書にも力を入れていく。	H25 決算	4,325	
				H26 予算	4,217	
② 読書教育事業		図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演、子ども映画会を開催し、子どもたちが読書の楽しさに気づききっかけをつくり、読書体験を深めるようにした。(延べ来場1150人) また、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を5回開催し、学校における読書環境の整備を支援した。	【取組への課題】 学校統合に向けて、図書室と学校図書室との情報の共有化など連携を強化する必要がある。	H24 決算	0	
				H25 予算	0	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 新たに各校の図書担当教諭を加え、読書教育研修会として情報共有・情報交換の場を設定する。	H25 決算	0	
				H26 予算	0	
合 計				H24 決算	4,202	
				H25 予算	4,329	
				H25 決算	4,325	
				H26 予算	4,217	

施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		スポーツ振興事業の充実							
現状と課題		スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題となる。							
施策の 情報 整理	目指す成果		町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。						
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明		
		体育施設利用件数	3,164件 (H23)	4,500件	6,000件	7,000件	体育施設利用件数 スポーツ大会等参加者数		
				4,807件	4,533件	(実績)			
		スポーツ大会等参加者数	3,861人 (H23)	7,000人	8,000人	10,000人			
	7,321人			7,422人	(実績)				
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない ー	施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)			14,134 千円		
	達成度の理由	体育施設利用件数については、前年度より低下しているが、水と緑の運動広場を12月より閉鎖した影響であり、その他の施設については若干の増加を見せている。スポーツ大会参加者数についても、目標には届かなかったものの、前年度より若干の増加を見せている。							
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	リバーサイドマラソンについては、雪のため開催中止としたが、申込者数をスポーツ大会等参加者数として計算した。							
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	スポーツ活動に参加している顔ぶれがあまり変わらず、町内のスポーツ活動は横ばいから減少傾向気味にあると推測される。今後は、住民ニーズや時代の変化を的確に捉え、より多くの人々に参加してもらえる事業活動となるよう検討を進める。また、町外からも広く参加者を募り、参加者を増やすことにより活気あるスポーツイベントとすることで町民のスポーツ活動に対する意識を刺激し参加を促進するとともに、スポーツ活動が地域の活性化につながるよう事業内容の検討を進める。							
住民との協働や他課の事業との連携	スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催する。特に、リバーサイドマラソンについては、各種スポーツ団体他、教育委員会関連団体をはじめ職員の協力により事業を実施する。また、著名なゲストラナーを招き参加者の増加につなげる。								
2. 事務事業の取り組み									
(単位:千円)									
事務事業名		平成25年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費	
①	スポーツ・レクリエーション交流事業	スポーツ等を通じた交流づくりを推進する。 軽スポーツ教室、町民ゴルフ大会、小学生相撲トーナメントの開催 千賀ノ浦部屋合宿開催に伴いふれあい相撲教室の開催		【取組への課題】 従来のスポーツ活動では新たな参加者の獲得があまり見込めないことから、新しい種目や運営形態の検討を進め、参加者獲得に努める。				H24 決算	774
								H25 予算	704
				【課題を踏まえ26年度の対応】 補助金を活用し、トップアスリートを招いてスポーツフェスタを開催し、スポーツ活動の活性化を図る。				H25 決算	696
								H26 予算	4,675
②	スポーツ競技力向上事業	専門競技の技術力を高める支援を行う。 印旛郡市民体育大会・印旛駅伝競走参加 リバーサイドマラソンの開催		【取組への課題】 各専門部の活動が衰退傾向にある専門部もあることから、連携して活性化を図る必要がある。				H24 決算	1,905
								H25 予算	4,109
				【課題を踏まえ26年度の対応】 マラソン大会の参加者獲得に努め、町内のスポーツ活動の活性化につなげたい。また、体育協会各専門部の活動支援を積極的に行い、地域スポーツコミュニティの再構築を図る。				H25 決算	4,078
								H26 予算	1,987
③	生涯スポーツ環境整備事業	スポーツ施設の適切な管理を行う。 ①水と緑の運動広場野球場・多目的広場 ②房総のむら多目的広場 ③町民運動場ABCグランド 町民プール一般開放(補修・管理) ふれあい公園相撲場設置工事 水と緑の運動広場(野球場・テニスコート)照明設置工事		【取組への課題】 水と緑の運動場の利便性を高めるため、野球場・テニスコートに照明を設置し夜間利用が可能となった。しかし引き続き各施設は修繕の必要があるため、優先順位を付けながら順次対応していく必要がある。				H24 決算	6,553
								H25 予算	9,321
				【課題を踏まえ26年度の対応】 学校も使用することから優先順位の高い町民プールの修繕工事を実施するとともに、維持管理体制の検討を進める。				H25 決算	8,812
								H26 予算	12,914
合 計								H24 決算	9,232
								H25 予算	14,134
								H25 決算	13,586
								H26 予算	19,576

学識経験者の意見（基本方針（２）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・ ②生涯学習推進事業の中でいきいき塾さかえ講座は、延 26 回開催して延参加者が 237 人だが、1 回の開催ではどのくらいの人数か。①地域教育力活用・支援事業の中の各事業をみると 1 回あたり数十人の参加があるのに、②生涯学習推進事業の事業は参加者が少ないように感じる。
- ・ 学習アドバイザー等たくさんの方が登録されているが、その割には講座の参加人数が少ないように感じる。例えば、学習アドバイザー事業は 9 回開催して、参加者が延 32 人ということになると、1 回は 3 人というような数字になる。せっかく講座を開いてお金をかけているのに、講師が来て 3 人、4 人では申し訳ないと思う。この辺は取り組みへの課題でマンネリ化や参加者数が低調な講座もでていくということで反省されているようだが、参加される方がもしかしたら固定化されているのかもしれないという印象を受ける。予算は少ないようだが、住民のニーズにあった、各世代がいきいきと参加できるような講座を工夫していただけるとよいと思う。よろしくお願いいたします。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・ これだけ利用していただけたら、素晴らしいと思う。人数から言っても、サービス利用者数 18,665 人のうち、図書室の利用者数が純粋に 15,426 人なのだから、おおかたが図書室を利用しているということになる。中高生の利用が課題だと思うが、小学生や高齢者の利用が多いということになるのか。
- ・ 利用者数が増えていることが素晴らしい。
- ・ 学校貸出しが 216 回は、よくやっていると思う。
- ・ ②読書教育事業の中に図書ボランティアによる読み聞かせ、お話し会、人形劇公演、子ども映画会など、子どもを本に近づけるための誘いの各種様々な取組みが良くされていて素晴らしいと思った。
- ・ サービス利用者数 18,665 人が多いか、少ないかはわからないが、人口よりは少ない。貸出し冊数はどのくらいか。新規購入冊数が 662 冊は少しさびしい。図書館の本は新しければ新しいほど来る、古くなるとなかなか行かなくなるので、予算確保に向けて努力され利用者がもっと増えるようにお願いしたい。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・ スポーツ大会等参加者数に計上されている大会は、ここに出ているリバーサイドマラソンの他にどのようなものがあるのか。
- ・ 町民の世代間交流を兼ねて、以前のように町民体育祭のようなものを行なえばいいのではないか。（悪天候にも対応できるよう体育館開催も含む）
- ・ リバーサイドマラソンの特徴は何か。アクアマラソンやすいかマラソンなど特徴のあるものはテレビ等で話題にのぼる。一工夫があれば選手もたくさん呼べるのではないか。

- ・ 指標で、体育施設利用件数は平成 24 年度 4,500 件から平成 25 年度 6,000 件に更に平成 26 年度は 7,000 件とスポーツ大会等参加者数も平成 24 年度 7,000 人から平成 25 年度 8,000 人、平成 26 年度は 10,000 人と 131%位の数値になる。目標を高くすることはいいが、この数値とした根拠は何か。高い数値を目指すことは大事だが、あまり高すぎると達成しにくくなる。
- ・ 高齢者向けの普段なかなか運動になじみのないような方でも参加できる、世代間交流のできるスポーツイベントを大々的でなくてもよいので、あったらいい。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・いきいき塾さかえ講座と学習アドバイザーによる講座の中には参加者が少数の講座もあることから、学習アドバイザーと協力しながら学習ニーズの把握に努め、講座内容の充実を図ってまいります。
- ・多様化する学習ニーズに対応し具体的な学習活動の機会を提供するため、様々な知識・技能・経験を有する人材を広く募集し、学習アドバイザーの充実に一層努めるとともに、大学などの教育機関、NPO・民間団体等と連携しながら魅力ある講座づくりを進めるなど、ライフステージに応じた学びの環境を整えてまいります。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・あらゆる世代の町民が必要とする資料や情報が便利に利用できるよう、利用者のニーズを把握しながら蔵書の整備・充実に努めるとともに、今後も図書室ボランティアと連携・協力し、読み聞かせやおはなし会・人形劇公演などを通して、子どもたちがより興味をもって読書に親しむための活動を推進してまいります。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・スポーツで健康づくりを視野に入れ、世代間交流など子供から高齢者まで幅広く参加できるスポーツイベントについての調査研究を進めてまいります。
- ・町内外の各種スポーツ団体のほか、青少年・高齢者を含む様々な団体と連携し、より多くの人々がスポーツに触れる機会を提供できるよう、スポーツを通じたネットワークづくりを進めてまいります。

基本方針（３）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施 策 名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 6
- ・歴史資料の公開・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 7
- ・文化財保護の拡充・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 8

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 9

○学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて・・・ P 3 0



施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		文化芸術発信拠点の充実							
現状と課題		・ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 ・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や会員の減少により、活動の減少が発生しており、活動支援や新規団体の育成が必要である。 ・社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れられる機会が望まれている。							
施策の情報整理	目指す成果	・文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。							
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明		
		ふれあいプラザの利用人数	178,185人 (H23)	180,400人	182,200人	184,000人	ふれあいプラザさかえの年間利用人数		
	成果目標の達成度(★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —				施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	82,835 千円	
			77,820 千円						
	達成度の理由	・施設・設備の不具合の解消として、視聴覚室のスクリーン、自動ドア、照明リモコンスイッチ、空調フィルターの修繕。文化ホールワイヤレスマイク、プロセニアムスピーカー、照明設備(電源基盤ユニット)の修繕。悠遊亭の畳換え、浴場のシャワールの修繕を実施。防災対策工事(二酸化炭素消化設備、消火器等)、エレベーター耐震対策工事の実施。 また駐輪場の屋根の塗装、駐車場内中央センター白線引き、調理室のまな板の表面削り、和室に掃除機を設置し機能改善を実施し、利便性の向上に努め、ふれあいプラザさかえを年間291日開館した。 ふれあいプラザを利用し、夏・冬休み、土曜日に栄町学習道場(わくわくドラム)が開設され、小学生の利用が増えた。							
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	・会議室の利用頻度が上がり、センター貸し部屋の利用率が前年度の65.4%から68.8%に上昇した。							
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持、及び文化ホールでの文化芸術事業の選択が課題となる。								
住民との協働や他課の事業との連携	・ふれあいプラザさかえ施設管理・運営において、住民団体が敷地内花壇を整備したり、施設利用者が施設利用の際、積極的な清掃、片付けを実施。								
2. 事務事業の取り組み (単位:千円)									
事務事業名		平成25年度の取組実績		事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費	
①	ふれあいプラザ施設管理・運営事業	・ふれあいプラザさかえを年間291日開館し管理・運営を実施。 ・ふれあいセンター視聴覚室のスクリーン、自動ドア、照明リモコンスイッチ、下水管詰り、水道管漏水修繕の実施。空調フィルター、電話端子板の交換。 ・文化ホール煙感知器、ワイヤレスマイク、プロセニアムスピーカー、照明設備(電源基盤ユニット)の修繕を実施。 ・悠遊亭の畳換え、浴場のシャワールの修繕を実施。 ・防災対策工事(二酸化炭素消化設備、消火器等)、エレベーター耐震対策工事の実施。 ・駐輪場の屋根の塗装、駐車場内中央センター白線引き、調理室のまな板の表面削り、和室に掃除機を設置し機能改善を実施。		【取組への課題】 ・経年経過による施設の不具合の全ての修繕ができなかった。				H24 決算	51,510
								H25 予算	51,806
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。 ・大規模改修計画を策定し、改修を実施する。				H25 決算	77,811
								H26 予算	78,815
②	文化芸術振興事業	・クラシックコンサート、アーティストと小学生との交流プログラムの実施。 ・高校・大学の協力を得てのコンサートの開催、地元芸術家による「写真展」の実施。 ・貸館事業による文化事業の展開。		【取組への課題】 ・文化芸術公演等の事業展開が多くできなかった。				H24 決算	0
								H25 予算	0
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・高校・大学の協力を得てのコンサートを開催する。 ・ふれあいプラザさかえ開館20周年の記念事業(公演、映画会、展示会等)を実施する。				H25 決算	0
								H26 予算	9
③	文化芸術団体支援事業	・サークル団体等の日頃の活動成果、発表する機会として栄町ふれあい文化祭を実施。 ・ふれあいセンター1階展示ロビーにおいて展示ケースやミニギャラリーを設け、サークルの案内、作品展示を展開。		【取組への課題】 ・文化祭への参加団体は、一般が3団体増え、サークルが3団体減り、50団体で前年と同数で、利用サークル連絡会は年度末で4団体増加した。しかし一部の団体では、会員の高齢化や会員の確保に苦慮している。				H24 決算	0
								H25 予算	9
				【課題を踏まえ26年度の対応】 ・栄町ふれあい文化祭やサークル紹介スペースを活用し、活動成果を発表し、広く団体の活動を紹介していく。				H25 決算	9
								H26 予算	9
合 計								H24 決算	51,510
								H25 予算	51,815
								H25 決算	77,820
								H26 予算	78,833

施策評価シート								
1. 施策の情報整理								
施 策 名		歴史資料の公開・活用						
現状と課題		町史編さんについては現在は凍結されており、できる調査を少しずつ進めている状況である。当面の課題として、調査の進捗の進んでいるものから、刊行するなど、刊行計画の見直しが必要である。						
施策 の 情 報 整 理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、公開することにより、町民の愛郷心を高揚させ、永く後世に伝えられている。						
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		『栄町史』全15冊を計画的に刊行する。	1/15冊 (H23)	1/15冊	1/15冊	2/15冊	刊行数/計画数	
	1/15冊			1/15冊	(実績)			
	成果目標の達成度 (★★★)	★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	216 千円 117 千円	
	達成度の理由	「栄町史編さん基本計画」のなかでも要望が高い『文化財社寺編』の刊行準備を進めた。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	過去の調査データをを活用して、町史編さん委員の協力をいただき広報誌に記事を毎月掲載することで、栄町の歴史・文化を紹介することで好評を得ることができた。						
	外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	刊行計画の凍結状況の長期化に伴い、栄町史編さん委員会及び専門委員の高齢化等に係る退任が進んでいることから、今までの成果の還元である『栄町史』の刊行を確実に進捗させる。						
住民との協働や他課の事業との連携	栄町古文書学習会の会員に『栄町史料編』(近世)への掲載予定史料に係る解説筆耕作業を継続的にお願いしている。このことは、会員の生涯学習活動を通して町民各位に情報が発信され、さらなる相乗効果となっている。また、新たに発見された地域史料(棟などの下張文書)の整理保存作業を継続的に実施している。							
2. 事務事業の取り組み								
事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)				事業費	
①	町史編さん事業	度々の刊行計画の改正により刊行事業としては進捗していないが、平成26年度の刊行に向けて編集作業の準備を進めた。また、近代部会の専門委員へ歴史講座の講師を依頼し講義していただいた。	【取組への課題】 刊行事業自体は凍結している。				H24 決算	100
							H25 予算	182
			【課題を踏まえ26年度の対応】 文化財社寺、民俗部会など調査の進捗しているものから刊行を図る。また、毎月発行の広報誌へ調査の成果などについて掲載する。				H25 決算	98
							H26 予算	178
②	記録史料の保存・公開事業	1.古文書等(自治組織等管理文書、民間史料)の整理保存は38組織中、12組織分が終了している。 2.歴史的公文書の整理保存作業は議会関係など一部については進捗している。	【取組への課題】 歴史的公文書整理のための作業の実施が難しい。(作業員、時間)また、地域史料整理は、基礎的作業について文化財サポーターとの協働により実施する。				H24 決算	19
							H25 予算	34
			【課題を踏まえ26年度の対応】 作業員・作業時間の確保、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史的公文書のライフサイクルを確立させる。				H25 決算	19
							H26 予算	33
合 計							H24 決算	119
							H25 予算	216
							H25 決算	117
							H26 予算	211

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		文化財保護の拡充						
現状と課題		・岩屋古墳・浅間山古墳の周辺は地権者が死亡している等、問題のある案件があるので、速やかな相続を支援することが課題である。また、未指定部分があるため、追加指定を目指し、残りの地権者からの指定同意書を取得する必要がある。 ・指定文化財を増やし、保護を図る必要がある。また、岩屋古墳の調査を進め、内容を確認する必要がある。						
施策の 情報 整理	目指す成果		文化財が持っている重要性への理解が深まり、後世に残すべき文化財の保護思想が形成されている。また、国史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化が図られ、その保全・活用のため整備計画策定に必要な岩屋古墳の修復や主要な古墳の調査が実施され、その成果が活用されている。					
	施策の目指す成果指標及び実績	指標	現状値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標数値の説明	
		龍角寺古墳群・岩屋古墳公有地化面積割合	81.4% (H23)	88.3%	91.0%	100%	岩屋古墳、浅間山古墳エリアの史跡用地の公有化率	
				88.8%	90.50%	(実績)		
		文化財活用事業の参加人数	500人 (H23)	500人	500人	500人	参加人数	
	550人			1032人	(実績)			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%以上) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策の事業費 (上段:最終予算) (下段:決算額)	9,434 千円	
			8,663 千円					
	達成度の理由	史跡の公有化については目標面積の90.5%を公有化した。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明	岩屋古墳の調査を行い、必要かつ重要なデータを収集した。文化財活用事業には、現地説明会、龍夢遺産紀行などを合わせ、延べ550人の参加者があった。						
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	岩屋古墳の発掘調査データから方墳として現在規模の確定している遺跡としては、日本一となったことから見学者の増加が見込まれるため表示板やガイドなどの対応が必要となっている。また、岩屋古墳エリアの公有化の進捗に伴い、史跡用地の環境整備(除草作業)が課題となっている。							
住民との協働や他課の事業との連携	文化財サポーター制度を拡充させて、教育委員会等が行う文化財に関するイベント等への協力や観光客等の来町者、見学者の案内・説明の協力。また、史跡等を保全するための環境整備・清掃作業への協力を進捗させる。							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		平成25年度の取組実績	事業の評価(取組の課題及び今後の課題への対応)		事業費	
①	文化財の保全・活用事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整は達成されている。岩屋古墳の発掘調査を行い、岩屋古墳の内容確認を実施した。また、東日本大震災により被災した国指定重要文化財「銅造薬師如来坐像」の光背・台座について国庫補助事業で修理することができた。なお、早稲田大学による龍角寺境内のレーダー探査による調査を支援した。	【取組への課題】 岩屋古墳本体の基礎的データの収集は進んでいるが、エリア内全域の埋蔵文化財調査の進捗が図れていない。また、早稲田大学による龍角寺境内のレーダー探査による調査に係る調整を図る。	H24 決算	8,744	
				H25 予算	7,356	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 岩屋古墳の基礎的データを収集するための発掘調査終了を受けて報告書作成に係る整理作業を進め、今後の整備・活用に必要なデータを収集する。また、早稲田大学による龍角寺調査の円滑化に係る支援を図る。	H25 決算	7,074	
				H26 予算	5,594	
②	龍角寺古墳群指定・調査整備事業	岩屋古墳、浅間山古墳エリアの公有率はほぼ目標に達した。特に、浅間山古墳エリア全域に係る指定地の公有化が地権者の理解を得られて終了することができた。	【取組への課題】 岩屋古墳、浅間山古墳エリア内の未指定地の追加指定を進捗させて、史跡用地の公有化を図る。岩屋古墳を中心とした定期的な環境整備(除草)作業を実施する。	H24 決算	65,087	
				H25 予算	2,078	
			【課題を踏まえ26年度の対応】 岩屋古墳エリアの指定地の公有化を進捗させる。また、文化財サポーター、栄町観光協会との協働による岩屋古墳エリアに係る、ガイドと環境整備(除草)作業を進捗させる。	H25 決算	1,589	
				H26 予算	2,134	
合 計				H24 決算	73,831	
				H25 予算	9,434	
				H25 決算	8,663	
				H26 予算	7,728	

学識経験者の意見（基本方針（３）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ふれプラはいろいろ利用させてもらっているが、文化ホール利用だけを取り上げるとしたらどのくらいか。
- ・文化ホールの空いている時間を活用しての映画会を開催していただきありがとうございました。今後も是非やっていただきたい。上映した映画「ローマの休日」は無料で、500人以上の方が来て盛況だったようですね。今後は、若干の入場料をとっても受け入れられるのではないかなと思うので検討をお願いしたい。
- ・あの規模の文化ホールだと、どうしてもやれるものが限られてくると思う。その中で30%の稼働率というのは普通以上ではないかなと思う。人数は平均すると500名程度なので、まだまだ入ると思うが、実際大変だと思う。もう少し小さいとやりやすいのだろう。
- ・80日のうちの自主事業の割合はどのくらいか。映画会などの自主事業を増やしていくと数値もよくなるのではないかな。
- ・この事業の決算状況を見ると、ほとんどふれプラのメンテナンスで終わっているのも、そればかりでなく、難しいかもしれないが、早く振興事業の方に振り分けられるように努力してほしい。
- ・ふれプラは栄町で運営しているが、大きな市町は指定管理制度で運営している。その辺も視野に入れていただければと思う。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・あまりにも予算が少なすぎる。これでは、何年たてば完成するのか。もっと予算をもらって充実させて下さい。
- ・大変地道な作業でご苦労も多いことと思う。最初から作れないのがわかっているものを指標にしては、★になってしまうのはしかたがない。努力が指標に表れるような指標のとり方をすべきではないか。
- ・刊行事業が凍結しているようだが、早く復活して進んでいくように願っている。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・岩屋古墳が日本一になったということで訪れる人が増えたと思うが、文化財サポーターはどのくらいの人数がいるのか。歴史好きな人は岩屋古墳をみるだけで満足するのだろうが、せっかく来たのであればドラムの里に寄ったりするでしょうから、もっといろいろなインフラができれば、人の動きが生まれ、栄町の名所としてさらに賑わうのではないかなと思うので、他の部署や民間と連携していければいいと思うので、よろしくをお願いしたい。
- ・だいぶ予算を費やして岩屋古墳の調査が終わったようだが、中から何か出てきたのか。価値のある文化財なので、ただそこにあるから見に来てください、とするだけではよほど歴史に興味のある人以外は見に来ない。けれども、世の中の観光事業をみると、花がそこに一つ咲いているだけでもバスを連ねていくような時代なので、丘全体を長期的に公園のような形で整備し、併せて古墳の貴重な財産を多くの人に見ていただくというような形で発展していただくとよいのではないかなと思う。

学識経験者からの意見を受けて今後の取組みについて

生涯学習課より

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・ 25年度実績で、文化ホールの利用日数が約80日で、自主事業のクラシックやジャズコンサート、ピアノ一般開放事業で年間12日程利用しました。今年度実施した、映画会についても反響が良く、次年度以降も計画してまいります。
- ・ ふれあいプラザさかえを拠点として、文化芸術に関する事業や情報発信の充実を図り、誰もが多くの文化芸術に触れる機会を提供してまいります。
- ・ 施設の機能改善、施設・設備の不具合の解消に取り組み、安心・安全で快適に使用できる施設環境の整備、及び民間活力の導入を含めた運営の適正化を行ってまいります。

【施策名：歴史資料の公開・活用】

- ・ 町史編さん事業については、引き続き文化財の保護と活用の観点及び歴史文化遺産資源として「文化財・社寺」編の刊行に向けた準備作業を進めてまいります。
- ・ 記録史料の保存・公開事業については、専門委員の協力を得て安食町役場文書（議会関係）の目録編集を進めるとともに、地域史料（古文書など）の整理保存作業を文化財サポーターとの協働作業により生涯学習活動の利用に供せるよう目録編集を進めてまいります。

【施策名：文化財保護の拡充】

- ・ 文化財の保全・活用事業については、国指定史跡のシンボルである岩屋古墳の発掘調査終了を踏まえて基礎的データの分析のため報告書の作成を進め、保存整備・活用の策定に供してまいります。また、岩屋古墳、龍角寺の見学者への案内のため、文化財サポーターへの研修を充実させてまいります。
- ・ 龍角寺古墳群指定・調査整備事業については、岩屋古墳エリアの指定地の公有化を進める。また、岩屋古墳エリアの主要遺跡を中心とした拠点の環境整備作業について、文化財サポーターとの協働作業により進めてまいります。

5 【本町教育行政が取組む方向について】

教育長より

平成25年度「栄町教育方針」を具現化するために、3つの基本方針を掲げ、12の施策を展開いたしました。各施策の取組を自己点検・評価し、現状と課題を把握しておりますが、学識経験者の方から取組結果による成果と課題について、微に入り細に入り評価・指導をいただいたことを真摯に受け止め、さらなる教育行政の充実・発展のため教育委員会職員が一丸となって取り組んでいかなければと考えております。

教育委員会では、平成27年度の学校統合については様々な課題を解決しながら、該当する児童・生徒たちが希望を持って新生「安食台小」「栄中」で「楽しく・豊かな学校生活」が営めるよう全力をあげて支援してまいります。

また、栄町の全ての児童・生徒たちが「生きる力」を育むために、学校・家庭・地域など社会全体で子どもの教育にあたっていくことが重要であると認識しております。さらに、町民の皆様方の生涯に亘って、豊かな生活がおくれるよう生涯学習全般の事業が充実するように力をいれていかなければと考えております。

今後は、多岐に渡る教育行政の課題解決に向けて、それぞれの施策の実効性を高めていく所存です。